

「地の果てに至るまで」

①

もうずいぶん前になりますが、あるクレジットカード会社のコマーシャルがテレビで放送されていました。お父さんと子供が初めて一緒に魚釣りに出かけます。釣り竿いくら、お揃いのベストいくら、「釣り仲間ができた日プライスレス」とのナレーションが親子で楽しく釣りをする場面で流れます。そして最後に「お金で買えない価値がある。買えるものは・・・」とそのクレジットカード会社の名前が出るというコマーシャルです。「お金で買えない価値がある。買えるものは・・・」このフレーズを覚えている方もおられるかなと思います。

クレジットカードの会社ですからうちのカードを使って買い物してください。お金で買えるものはぜひうちのカードでというわけですが、この世界にはお金では買えない価値のある大切なものがたくさんあるのですよというメッセージが込められたこのコマーシャルの内容は奥が深いなと思います。

この世界にはお金で買えない価値のある大切なものが本当にたくさんあります。幸せ、健康、愛、人の心、かけがえのない経験もそうです。特に今私たちが思わせられるのが平和だと思います。どんなにお金を積んでも平和は手に入れることはできません。他にもまだまだたくさんあります。そのお金で買えないものを高いお金を払ったら手に入れられると勘違いしたり、権力とか地位とか名誉のある人が自分の立場を利用してお金で手に入れようとすると誤った方向に行き、不幸なことになってしまうのです。そのお金で買えないものを買おうとしたのが、今日の御言葉に出てくるシモン、あるいは魔術師シモンと呼ばれている人です。

②

エルサレム教会の大迫害をきっかけにユダヤとサマリアという異邦人の地に福音が宣べ伝えられていきました。フィリポはサマリアでイエス様の福音を宣べ伝え癒しの業を行っていました。人々はフィリポの働きを喜んで受け入れました。

そのサマリアにシモンという人がいました。9節によりますと「魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。」とあります。どのような魔術かはわかりませんが、「偉大な人物と自称していた」ですから、自分で自分を偉大だという人に大した人はいません。「俺は偉いんだ」と自分が思ってふんぞり返っているほど周りの人は偉いと思っ
ていません。それでもサマリアの人々はこのシモンと呼ばれる人の魔術に長い間心を奪われ「神の力だ」と注目をして彼のことをちやほやしていました。

そこにフィリポがやってきてサマリアの人々は信じて次々に洗礼を受けました。サマリアの人々はシモンの語ることや魔術に注目し心を奪われはしましたが、彼のことを信じてはいませんでした。ところがフィリポが語る福音は信じたのです。そこにサマリアの人々の反応の違いがあります。そしてシモンもフィリポが語る福音を信じて洗礼を受けフィリポにつき従っていました。ただその信仰は「すばらしいしるしと奇跡を行われるのを見て驚いていた」という奇跡行為にばかり注目し、その力がどこから来るのかを知りたい、あわよくばその力を手に入れたいという打算的なものであったかと想像できます。

そこにエルサレム教会から遣わされたペトロとヨハネがやって来て、洗礼を受けたサマリ

アの人々に聖霊を受けるように祈り、彼らが人々の上に手を置くと聖霊が降りました。その様子を見たシモンは「手を置くことで聖霊を授ける力を私にも与えて下さい」とペトロとヨハネにお金を持って来て頼みます。決してお金で買えない大切な神の力をお金で買おうとしたのです。そんなシモンをペトロは叱責しシモンは「主に祈ってください」と執り成しの祈りを求めました。

③

このシモンの姿ですが、「お金でなんとかしようとするなんて、どうしようもないやつだなあ」と軽蔑することは簡単なことでしょう。けれども、このシモンの姿は私たちはただ軽蔑をしたり傍観をしてはいられない、決して他人ごとではない、私たち人間の誰もが持っている根本的な問題を現わしていると言えるのです。

シモンが高いお金を払ってでも何とかして手に入れたかったのは神様の力です。そして、彼はその力を手に入れることでどうしたかったのでしょうか。純粹に人々の上に手を置いて聖霊を与えたかったのでしょうか。イエス様を信じる人が一人でも増えて欲しかったのでしょうか。決してそうではないでしょう。

それはどうしてかと言いますと、かつてシモンはその魔術を使ってサマリア人から称賛されちやほやされていました。それはさぞかし気持ち良かったでしょう。ところがある日フィリポという人物が来て自分が得ていた称賛を持っていかれてしまいました。今までシモンをちやほやしていた人は皆フィリポの方に行ってしまい、一人残されたのかもしれない。そうすると、もう一度みんなの注目を浴び、ちやほやされたい、そんな欲求がシモンを支配しました。シモンが洗礼を受けたのは人々の称賛を取り戻す手段であると考えられます。だからこそ、フィリポの奇跡行為にばかり注目し、あわよくばその力を手に入れたいと思っていたでしょう。その延長線上にあるのが、ペトロとヨハネからお金で買おうとした神の力です。この力があれば間違いなくサマリアの人々の称賛を取り戻せるのです。ですから、シモンにとって聖霊を授ける神の力もまた自分が称賛を得るための手段でしかなかったのです。シモンが本当に欲しかったものは人々の称賛なのです。

④

人からちやほやされたい、注目されたい、褒められたい、そう言った思いは私たちの誰もが持っている正直な気持ちです。人からけなされて馬鹿にされて蔑まされて辛い思いをして生きるよりはちやほやされて生きる方が気分が良いです。しかし、そこで私たちが忘れてはならないのは神様の存在です。ちやほやされる、注目される、褒められていい気分になる、そこで神様を忘れてしまって、いつのまにか自分の方が神様よりも上になってしまっていたら、それはシモンが犯した罪の姿と同じなのです。

シモンは人からの称賛が何よりも大切であり、その手段のために神の力をお金で買おうとしたのです。ですからシモンの根本的な問題はお金で買えないものをお金で買おうとしたというよりも、神様を自分よりも下にして神様を利用しようとした、自分の欲望を満たすために神様を利用しようとしたことです。それは自分が神様よりも上であり、神を畏れない、神を神としない思い、そこにシモンの問題があり、それは決して他人ごとではない私たちの姿がここにあると言えるのです。

だからこそ大切なのが私たちが神様を畏れ、神様を神様として礼拝することです。それは言い換えますならば、罪深い私たちを愛してくださるイエス様の十字架と復活の愛を信じて

感謝をして礼拝をするという私たちの信仰生活の基本であり、教会が最も大切にしていることをこれからも大切にしていこうということです。毎主日の礼拝を大切にしていって、御言葉に聴き、イエス様からいただいた愛の業を實踐していく、奉仕の業に励むことです。決してお金では買えない大切なものが教会にはたくさんあることを宣べ伝えていきたいと思っています。